

- 1 題材名 アジアの音楽に親しもう
教材名 「きょう土の音楽」 おはやしづくり 「子もり歌」
「アジアの国々の音楽」 「アリラン/まつり花」
- 2 題材の目標
・アジアの国々のいろいろな音楽に関心をもって、進んで聴いたり表現したりしようとしている。
・旋律の特徴や歌詞から曲想を感じ取って、歌い方や楽器の演奏の仕方を工夫する。
・旋律の特徴を感じ取って歌ったり、お囃子をつくって演奏したりすることができる。
・アジアの国々の音楽の違いを感じ取ったり、それぞれのよさを味わったりしながら聴くことができる。
- 3 題材について
この題材では、我が国や近隣諸国を中心とする諸外国の音楽の曲想や独特の味わいを、鑑賞活動を通して感じ取ったり、表現の活動を通して味わったりする学習を進める。
新教科書のカリキュラムでは、4年生で、我が国で古くから歌われたり演奏されたりしている民謡やお囃子に親しむながら、これらの音楽がもつ独特の味わいを感じ取る活動を進めることになっている。しかし、今年の5年生は、4年生のとき1・2曲のお囃子や民謡を聴いた程度で、そのよさを感じたり独特の味わいを感じ取ったりするところまで取り組んできていない。
そこで、アジアの音楽に親しむ前に、まず我が国の身近な音楽に目を向ける活動を取り入れて、日本考えた。祭りや盆踊りなどとともに伝えられてきた民謡やお囃子を取り上げて、日本の伝統的な音楽のふしや響きの特徴を感じ取りながら、各地の民謡を聴き比べて、日本、笛のふしや太鼓のリズムをつくって演奏を楽しんだりする活動へと進めよう。教材としては、歌声を中心にして日本の音楽に親しむために、「花笠音頭」・「こきりこぶし」・「三国節」(きょう土の民謡)など民謡を取り上げる。そして、楽器の音色やリズムのおもしろさなどに注目して聴く教材として「神田囃子」「ねぶた囃子」「祇園囃子」などお囃子を取り上げ、さらに、日本のふしの特徴を感じ取りながら笛のふしや太鼓のリズムをつくって楽しむ「おはやしづくり」へと進んでいきたい。
アジアの国々の民族音楽を聴く活動では、地域ごとに次のような音楽を聴いたり、身近には見ることができない珍しい楽器に気付いてその音に親しんだりする。
・朝鮮半島に伝わる撥弦楽器「カヤグム」の演奏
・中国の伝統的な擦弦楽器「アルフー」の演奏
・インドネシアの声によるアンサンブル「ケチャ」
・インドの代表的な撥弦楽器「シタール」と打楽器「タブラー」の演奏
・オスマン帝国時代に活躍したトルコの軍楽隊「メヘテルハーネ」
・「アリラン」...朝鮮半島一帯に広く伝わる民謡で、日本の民謡にはない3拍子系の音楽である。ここではテグムやピリ、カヤグム、チャンゴといった朝鮮半島の民族楽器によって伴奏される演奏で、旋律の味わいや重なり合う響きの美しさを感じ取りながら、聴いたり工夫して歌ったりする。
・「まつり花」...まつり花とはジャスミンのことで、中国各地で歌われてきた代表的な民謡の一つである。ここでは、現代風にアレンジされオーケストラ伴奏によって歌われる児童合唱の演奏や女子十二楽坊の演奏を聴いて、旋律の特徴や響きの美しさを感じ取ったり歌うことを楽しんだりする。
- 4 児童について
グループ活動など回を重ねるごとに少しずつ音楽を楽しむ雰囲気が出来てきているクラスである。「いつでもあの海は」のグループ唱への取り組みでは、次第に友だちのほんの少しのよさやがんばりを見つけてほめる姿勢も見られるようになってきて更にこの雰囲気を広げていきたいと願っている。
我が国やアジアの国々の伝統的な音楽については、ほとんどの児童が「知らない」「わからない」「聴いたことがない」と答えている。「日本で昔から歌われたり演奏されていたりしている曲は？」との問いにも「もみじ」とか「ほたるの光」と答えてくる。知らないちもんだい、やお囃子や「とおやんせ」などのわらべうたは知っているも、小さい子どもは歌というだけで日本独特の歌という認識はほとんどない。盆踊りも地域から消えつつある昨今、「よさこいっちゃん」や「よさこいそらん」の形では知っているが、歌い継がれてきた民謡は耳にすることもない児童がほとんどである。

アジアの国々の音楽になると、韓国の「冬のソナタ」の主題歌や中国の女子十二楽坊の演奏を聞いたことがあるのが、7・8名という程度である。
 ふしづくりの活動は、4年生で4小節のつづきのふしをつくってリコーダーで発表し合った経験はあるが、ペアやグループで作品をつくる経験は初めてなので、互いの作品を認め合って楽しく活動できるよう配慮していきたい。

5 指導について
 ・この題材では、まず日本やアジアの国々の音楽に関心をもち、その特徴や曲想の違いを感じ取り、それぞれのよさを味わったりしながら聴こうとする態度を育てるとともに、それぞれの国々の文化を尊重する気持ちを育てていきたい。そのために、写真やビデオ、地図など視聴覚教材を用意してイメージを広げやすくしたり、興味をもった地域の音楽を、本やCD、インターネットなどを使って調べるよう勧め発表の機会をもたせたりして興味を深めていくようにしたい。
 また、その特徴をより感じ取りやすくするために、毎時間2つの国や地域の音楽を楽器や歌声の音色、演奏の形などに気を付けて聴き比べる時間を持ったり、CDに合わせて歌う・リズムを打つなどの表現活動を取り入れるようにしていきたい。
 ・特に我が国の音楽の特徴を感じ取り親しむために、「おはやしづくり」に取り組んでいきたい。その活動に当っては、まず日本の祭囃子をいくつか聴いてその特徴をとらえ、4小節の笛のふしづくりや、チャレソングのふしづくりなどを通して、簡単なワークシートを用意して音を当てはめたり、打つ方などを知ったりして、4分の4拍子のリズムをつくり組む工夫を工夫して太鼓のリズムをつくらせたり、さらには一人一人が笛のふしと太鼓のリズムを合わせたりしていききたい。
 ・今後、6年生での「世界の音楽」「日本の音楽」「春の海」「越天楽今様」の学習、中学校での「箏」の演奏にチャレンジする学習へ進む最初の出会いともなるので、理論や技術的なことには深入りせず、特徴や雰囲気を感じ取りながらゲーム感覚で楽しみ、それぞれの伝統的な音楽への興味・関心を高める活動にしていきたい。

6 指導計画（9時間配当）

時	学習内容	ねらい	関	感	技	鑑	評価規準
1	「花笠音頭」等各地の民謡や「お囃子」等を聴く。	各地の郷土の音楽を聴き比べ、日本音楽の特徴や構成をつかむ					郷土の音楽を聴いて、その特徴や構成を感じ取っている。（ワークシート、発表）
2	お囃子の音階を知り、お囃子のふしをつくる。	日本のふしに親しみ、笛のふしをつくって楽しむ					日本の音階を使って、簡単なお囃子のふしをつくっている。
3	和太鼓の奏法を知り、太鼓のリズムを工夫し演奏する	和太鼓に親しみ、太鼓のリズムをつくって楽しむ（本時）					組合せを工夫して、太鼓のリズムをつくっている
4	笛のふしと太鼓のリズムを合わせたりお囃子を考へる	太鼓や笛を合わせてお囃子をつくり演奏できる					太鼓やリコーダーの奏法を工夫し、拍の流れに乗って演奏できる。
5	お囃子に工夫を加え発表する。友達や発表のよさを認め合う	自分たちのお囃子を更に工夫したり、友達の演奏を聴いたりして楽しむ					お囃子を工夫して表現できる。工夫している点に気付き発表を聴くことができる
6	アジアの国々の音楽を聴く。	アジアの国々の音楽に親しみ、その違いやよさを味わう					興味をもって聴いている。それぞれの音楽の響きの違いを感じ取っている
7	歌い方や楽器に注意し「アリラン・まつり花」を聴く	アジアの国々の民謡のよさに気付き、それぞれの歌に親しむ。					それぞれの曲の違いやよさを味わって、進んで聴いたり歌ったりしている
8	「アリラン・まつり花」を工夫して歌う	旋律の特徴を捉えて表現を工夫して歌う。					旋律の特徴を捉えている。表現を工夫しながら歌うことができる。
9	2つの「子守歌」の感じの違いを付けて、聴いたり歌ったりする	旋律の違いを感じ取りながら、歌い方を工夫することができる。					2つの旋律の特徴や違いを感じ取って聴ける。2つの旋律の特徴を感じ取り表現を工夫している

- 7 本時の目標
- ・和太鼓の奏法を知り，太鼓に親しむことができる。
 - ・組合せを工夫して，お囃子の太鼓のリズムをつくって演奏できる。

- 8 準備物
- 教師 ・和太鼓 ・和太鼓ばち ・太鼓のリズム譜（掲示用）
 児童 ・練習用太鼓 ・練習用ばち ・ワークシート

9 本時の学習過程

学 習 活 動	支 援 (・) と 評 価 ()
<p>お囃子を2曲聴いて比べる。 CDに合わせてリズムをとったり，演奏のまねをしたりする。</p> <p>和太鼓の演奏を視聴する。</p> <p>本時のめあてを確認する</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>おはやしの太鼓のリズムをつくって演奏しよう</p> </div> <p>和太鼓のばちの持ち方や構え方，打ち方などを知り，教科書のリズムで練習する。</p> <p>ドン...右打ち コン...左打ち カカ...粹打ち</p>  <p>4分の4拍子のリズムをつくって組み合わせ，適宜4拍目にわく打ちを入れて4小節の太鼓のリズムをつくる</p>  <p>二人でつなげて練習する</p> <p>つくったリズムを全員でリレーして発表し合う。</p> <p>友達の発表のよさを見つけて発表する。</p> <p>次時には，笛のふしと太鼓のリズムを合わせてグループでおはやしをつくることを知る。</p>	<p>支援(・)と評価()</p> <ul style="list-style-type: none"> ・楽器の音色，リズムに気を付けて聴くよう声かけをする。 楽器のリズムや雰囲気を感じ取って聴いている(態度や発表) ・構え方やばちの持ち方などに気を付けて見るよう声をかける。 <ul style="list-style-type: none"> ・二人組で教え合いながら練習するよう声をかける。 ・練習用の太鼓とばちを二人に1組用意しておく。 ・ドン・コン・カカと口で唱えながら練習するよう伝える。 <ul style="list-style-type: none"> ・前時につくった笛のふしに合わせる4小節の太鼓のリズムをつくることを確認する。 ・難しい児童には教科書のリズムを組み合わせるよう助言する。 <p>組合せを工夫して太鼓のリズムをつくっている(練習中の様子 子供たちとの会話，ワークシート)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・できたペアは，笛のふしと合わせてみる。 ・拍の流れに乗って打てるよう，教師が鉦で拍を打って支援する。 ・ワークシートにふり返り